

# 日本初「光免疫療法」の研究拠点 関西医科大学に誕生

関西医科大学は、光免疫療法研究の第一人者であり生みの親でもある小林久隆教授をN

I H(米国国立衛生研究所)から招聘し、「光免疫医学研究所」を開設した。4月20日、同大学校方キャンパスで記者会見が行われた。

光免疫療法は、がん細胞のみを狙い撃ちにし、患者自身の免疫を活性化させようという新しい治療法。同大学附属病院では昨年4月から「光免疫療法センター」を設け、手術などでは治せない難治性の

再発頭頸部がんの治療を開始。基礎研究と臨床治療のサポートを行う、基礎開発・免疫・腫瘍病理学の3部門に



関西医科大学校方キャンパス医学部棟1階・加多乃講堂での記者会見。左から友田幸一学長、山下敏夫理事長、小林久隆特別教授(所長)、木梨達雄副学長

総勢約30人の研究者を擁する研究所が加わる盤石の態勢で、日本における新療法の研究拠点が誕生した。

山下敏夫同大学理事

長は「かつて米国オバマ大統領の一般教書演説で、副作用が少ない夢のある第5のがん治療法として紹介され、世界規模で治験が行われています。2020年9月に世界に先駆けて日本で承認され、

全国約60の医療機関で多くの臨床データが集積されています。今後この治療法は頭頸部がんに限らず、さまざまながん治療に寄与する可能性があります。これを成功させるためには充実した研究資源と優れた人材が必要だと、それらを提供する研究拠点をここに誕生させました。がんて苦しんでいる患者さんを一人でも多く救うため、小林教授と共に研究を進め実用化を目指します」と力強く語った。

枚方の地から先端医療を通して世界に発信する関西医科大学の今後に注目したい。